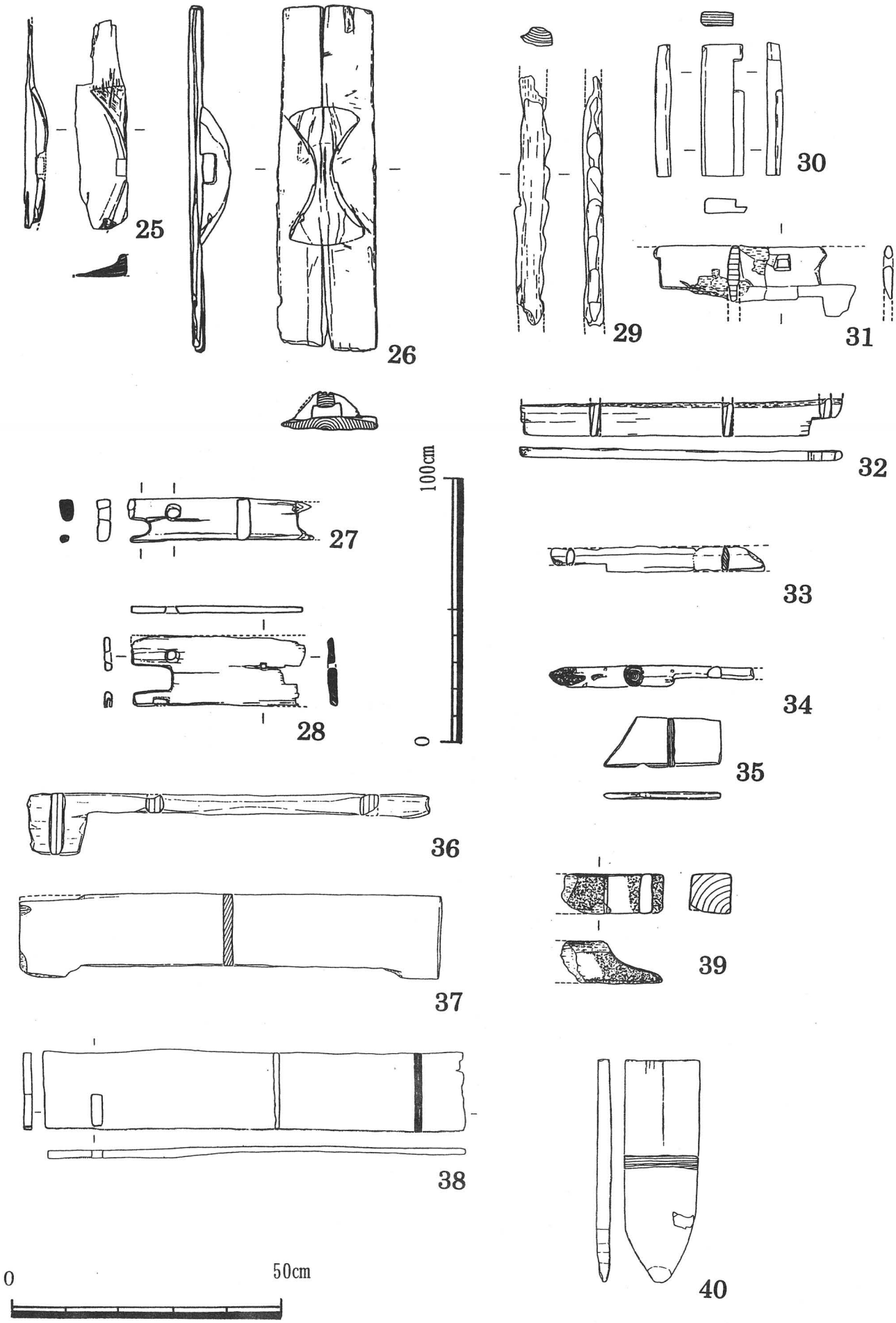
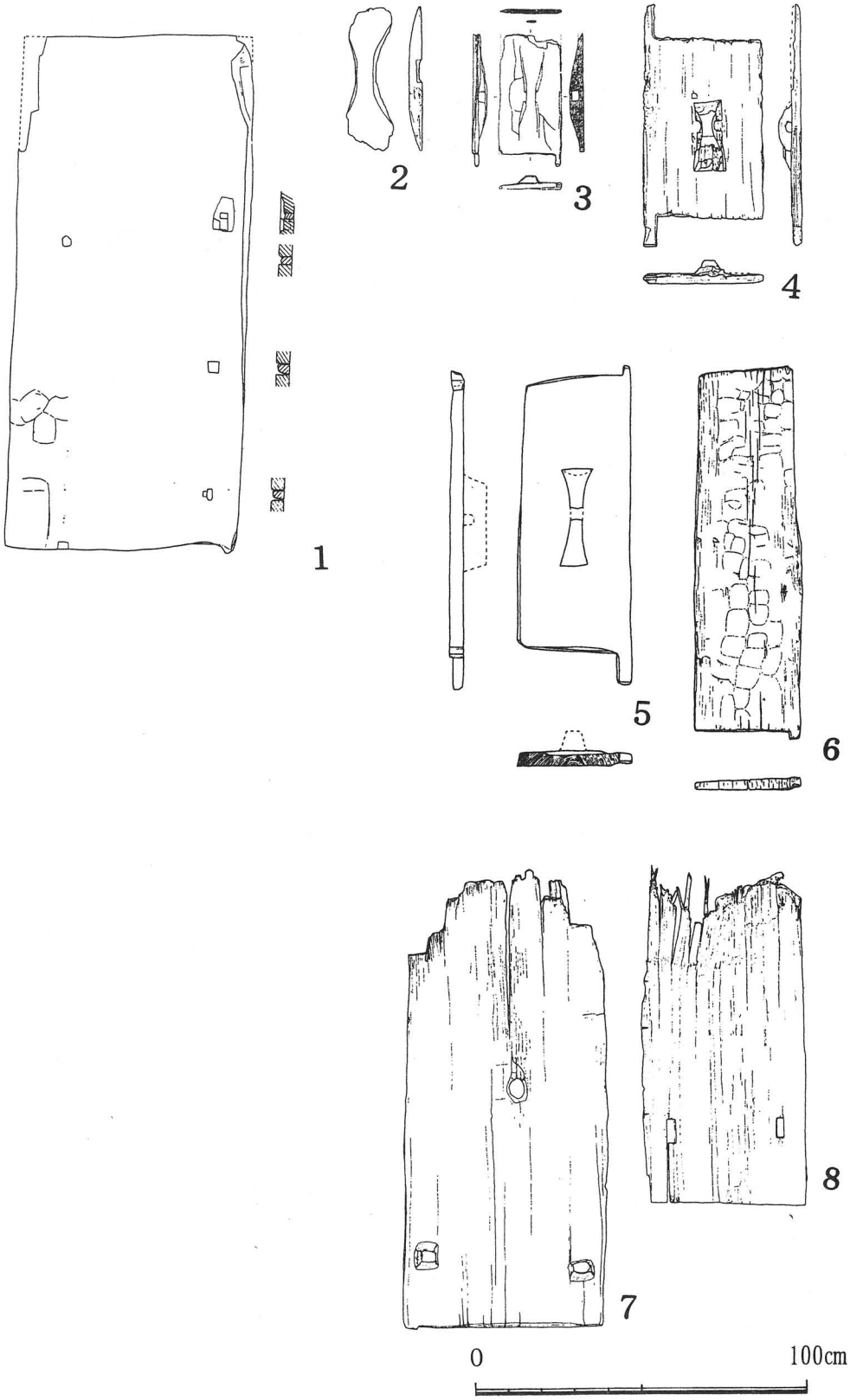


（25～28はＳ＝1/20、29～40はＳ＝1/10）

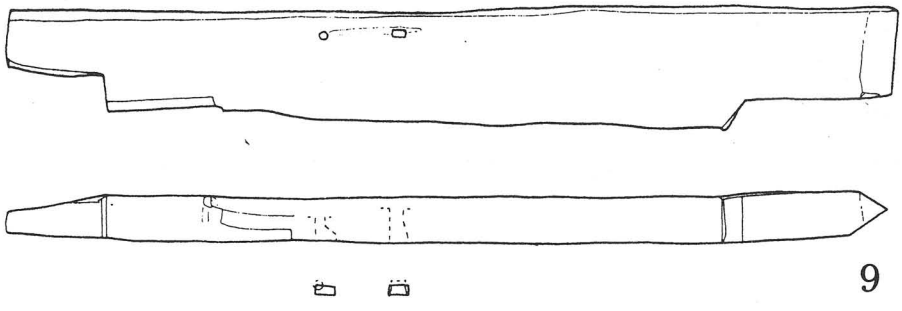
遺跡名：**和爾・森本遺跡**　　所在地：**奈良県天理市　古墳時代中～後期**

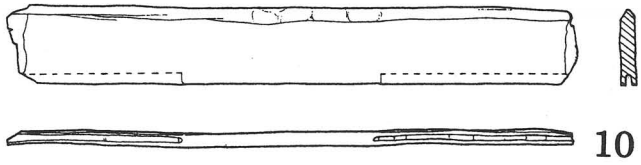
文献：奈良県立橿原考古学研究所『天理市和爾・森本遺跡』奈良県史蹟名勝天然記念物調査報告第45冊　1983

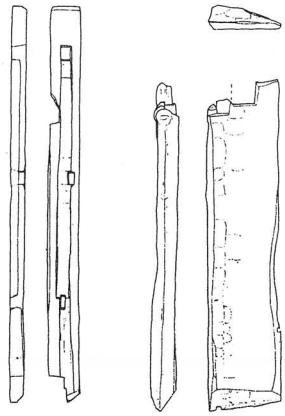
奈良県立橿原考古学研究所『天理市和爾・森本遺跡Ⅱ』奈良県史蹟名勝天然記念物調査報告第58冊　1988

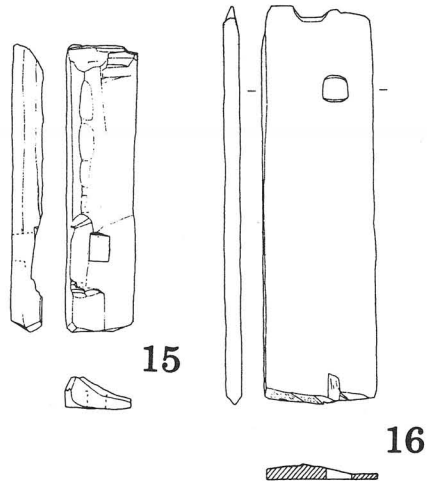


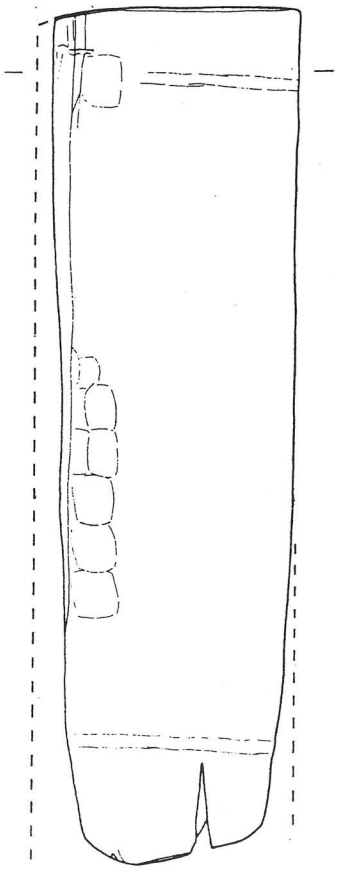
（S＝1/20）

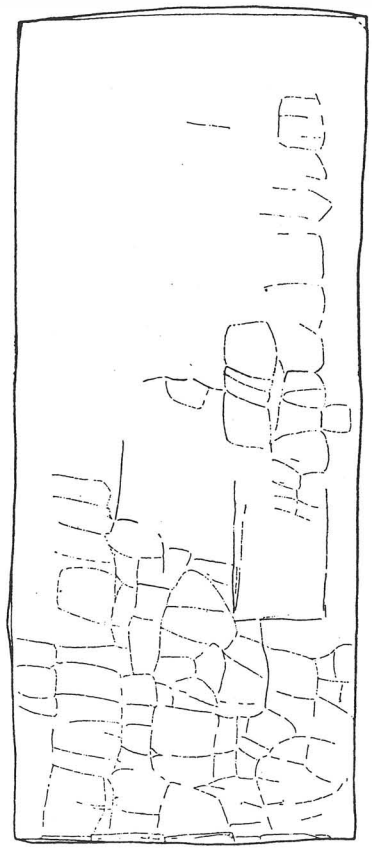


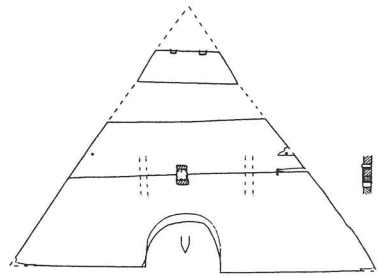


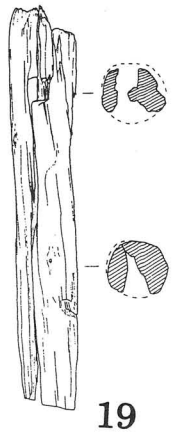












0 100cm

(S＝1/20)

1.槽と樋と小溝が掘り込まれた材（木樋、長 401 cm、幅 89 cm、厚さ 7 cm）
2.全体が樋状に加工された材（木樋、長 382 cm、幅 24 cm、厚さ 3.3 cm）
3.全体が樋状に加工され、台が固定されるほぞ穴のある材（木樋、長 275 cm、幅 43 cm、厚さ 3.5 cm）
4.切欠きとほぞ穴のある材（木樋の台、長 104.3 cm、幅 25 cm、厚さ 1.5 cm）
5.木樋に接して設けられた敷板（板材、長 380 cm、幅 20.5 cm、厚さ 2.5 cm）
6.木樋に接して設けられた敷板（板材、長 388 cm、幅 22 cm、厚さ 3 cm）
7.木樋に接して設けられた敷板（板材、長 386 cm、幅 20 cm、厚さ 2 cm）
8.小口端部を斜めに切り落とした材（壁板、長 375 cm、幅 30 cm、厚さ 2 cm）
9.小口端部を斜めに切り落とした材（壁板、長 22.4 cm、幅 6 cm、厚さ 1.2 cm）
10.扉構えを設置した可能性がある幅広の刳り込みのある材（壁板、長 188 cm、幅 16.5 cm、厚さ 1.5 cm）
11.（壁板、長 134 cm、幅 5.5 cm、厚さ 1 cm）
12.端部を杭状にした材（柱材、長 99.5 cm、径 13 cm）
13.端部を杭状にし、軸線上の 2 方向に壁板落としこみ用の縦溝がある材（柱材、長 134.9 cm、径 13.5 cm）
14.端部を杭状にし、軸線上の 2 方向に壁板落としこみ用の縦溝がある材（柱材、長 123 cm、径 11.5 cm）
15.棟持ち柱に相当する材（柱材、長 113 cm、径 15 cm）
16.端部を杭状にし、軸線上の 2 方向に壁板落としこみ用の縦溝がある材（柱材、長 138 cm、径 13.5 cm）
17.端部を杭状にし、軸線上の 2 方向に壁板落としこみ用の縦溝がある材（柱材、長 135.5 cm、径 13.5 cm）
18.端部を杭状にした材（柱材、長 125 cm、径 13 cm）
19.棟持ち柱に相当する材（柱材、長 113 cm、径 14.5 cm）
20.表裏に互い違いの欠込がある材（垂木か、長 193.5 cm、径 5.5 cm）
21.切欠きのある材（屋根構造材、長 43.6 cm、幅 6.6 cm、厚さ 3 cm）
22.ほぞ穴のある材（垂木か、長 91 cm、幅 4.3 cm、厚さ 3.3 cm）
23.表裏に互い違いの欠込がある材（垂木か、長 78.5 cm、幅 5.5 cm、厚さ 3 cm）
24.両端を尖らせた材（垂木か、長 76.8 cm、幅 1.4 cm、厚さ 0.7 cm）
25.側面に方形の貫通孔のある材（扉把手、長 80 cm、幅 18 cm、厚さ 0.5～5 cm）
26.一木から把手が造り出され、その側面に方形の貫通孔がある材（扉材、長 132 cm、幅 36 cm、厚さ 4 cm）
27.半円形の刳り込みと軸穴のある材（蹴放し材か、長 68 cm、15.6 cm、厚さ 4.7 cm）
28.方形の刳り込みと軸穴とほぞ穴のある材（蹴放し材か、長 64 cm、幅 25.6 cm、厚さ 3.2 cm）
29.側辺に V 字状の抉りが連続して施された材（棒材、長 47.8 cm、幅 3.4 cm、幅 4 cm）
30.側辺にコの字の切欠きと段差を設けた材（板材、長 25.4 cm、幅 7.9 cm、厚さ 2.8 cm）
31.ほぞ穴のある材（板材、長 37.3 cm、幅 13.4 cm、厚さ 2.2 cm）
32.L 字状の切欠きのある材（板材、長 59.9 cm、幅 6.1 cm、厚さ 1.9 cm）
33.切欠きのある材（屋根構造材か、長 40 cm、幅 5 cm、厚さ 1.2 cm）
34.切欠きのある材（屋根構造材か、長 38.2 cm、幅 3.7 cm、厚さ 3.3 cm）
35.端部を斜めに切り落とした材（板材、長 21.9 cm、幅 9.2 cm、厚さ 1.3 cm）
36 端部に方形の突出部を造り出した材（角材、長 74.8 cm、幅 11.5 cm、厚さ 2.7 cm）
37.浅い台形状の刳り込みがある材（板材、長 77.9 cm、幅 15.6 cm、厚さ 1.6 cm）
38.ほぞ穴のある材（板材、長 79 cm、幅 14.6 cm、厚さ 1.3 cm）
39.端部に弧状の削り落としがある材（角材、長 18.8 cm、幅 8 cm、厚さ 7.9 cm）
40.端部を切り落として尖らせた材（矢板、長 41.5 cm、幅 13.7 cm、厚さ 2.6 cm）

1.ほぞ穴と軸状の突出がある材（扉板か、長 155 ㎝、幅 68 ㎝、厚さ 4.8 ㎝、ヒノキ）

2.側面に長方形の貫通孔のある材（扉把手、長 44 ㎝、幅 14 ㎝、厚さ 2.6 ㎝、モミ）

3.突出する軸部と側面に方形の貫通孔をもつ把手がそれぞれ一木から造り出された材（扉板）

4.上下に突出する軸部と側面に半円形の貫通孔をもつ把手がそれぞれ一木から造り出された材（扉板、長 73 ㎝、幅 36.6 ㎝、厚さ 3.2 ㎝、ヒノキ）

5.突出する軸部と把手剥離痕のある材（扉板、長 96.4 ㎝、幅 34.4 ㎝、厚さ 4.6 ㎝、ヒノキ）

6.突出する軸部がある材（扉板、長 113.2 ㎝、幅 33 ㎝、厚さ 3.4 ㎝、ヒノキ）

7.ほぞ孔のある材（板材、長 137.4 ㎝、幅 60.4 ㎝、厚さ 4 ㎝、ヒノキ）

8.ほぞ孔のある材（板材、長 105 ㎝、幅 49 ㎝、厚さ 3 ㎝、ヒノキ）

9.切欠きと小孔のある材（板材、長 93 ㎝、幅 13.5 ㎝、厚さ 5 ㎝、モミ）

10.側面に溝がある材（板材、長 148 ㎝、幅 20 ㎝、厚さ 4 ㎝、モミ）

11.上方へ立ち上がる屈曲部をもつ材（樋の側板か、長 89 ㎝、幅 2.6 ㎝、厚さ 2 ㎝、モミ）

12.（板材、長 87.8 ㎝、幅 37 ㎝、厚さ 3 ㎝、モミ）

13.ほぞ穴と溝と切欠きのある材（板材、長 103 ㎝、幅 7.8 ㎝、厚さ 3.7 ㎝、ヒノキ）

14.ほぞ穴のある材（板材、長 86 ㎝、幅 19.8 ㎝、厚さ 6.5 ㎝、ヒノキ）

15.欠込とほぞ穴のある材（壁板か、長 75 ㎝、幅 18 ㎝、厚さ 4.1 ㎝、ヒノキ）

16.ほぞ孔のある材（板材、長 104 ㎝、幅 28.8 ㎝、厚さ 4.4 ㎝、ヒノキ）

17.4 枚の板を三角形状に継ぎ、接ぐための小孔と楔と緊縛材があり、下辺に半円形の切欠きがある材。（妻覆い、下部長 95.2 ㎝、高さ 70 ㎝、厚さ 2 ㎝、ヒノキ）

18.切欠きと未貫通の円孔のある材（柱材、長 72 ㎝、径 16 ㎝）

19.貫穴のある材（柱材、長 106 ㎝、径 15 ㎝）

跡名：伴堂東遺跡　所在地：奈良県磯城郡川西町　　古墳時代中～後期

文献：奈良県立橿原考古学研究所『伴堂東遺跡』奈良県橿原考古学研究所調査報告第 49 冊　2002

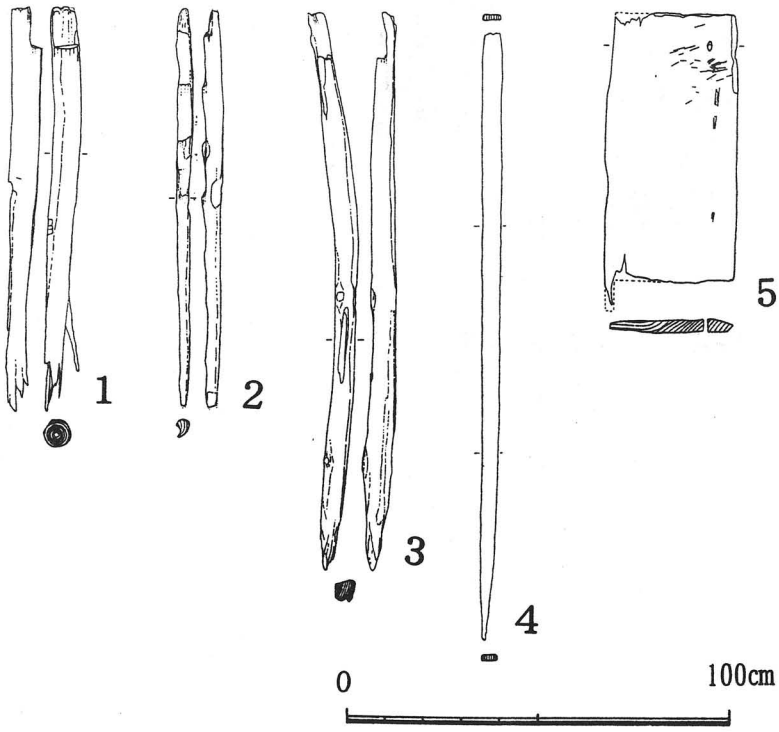
1.切欠きのある材（井戸枠部材、長 106.8 cm、径 5.7 cm）

2.切欠きのある材（井戸枠部材、長 104.8 cm、幅 5 cm）

3.切欠きのある材（井戸枠部材、長 147 cm、幅 5.4 cm）

4.端部を鋭くした材（板材、長 160 cm、幅 5 cm、厚さ 1.8 cm）

5.軸部を造り出し、小孔が穿たれた材（扉材、長 71 cm、幅 34 cm）



（S＝1/20）

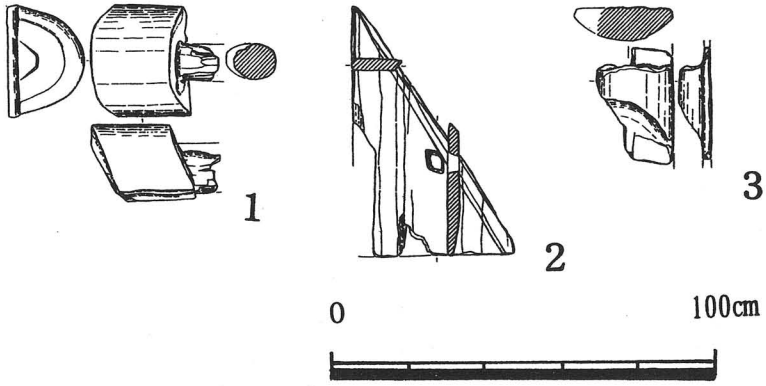
遺跡名：平城京左京三条二坊下層遺跡　所在地：奈良県奈良市　古墳時代後期

文献：奈良国立文化財研究所『平城京左京三条二坊』奈良国立文化財研究所学報第 25 冊 1975

1.正面木口に転びをもち、重弧文風の飾りをほどこし、円柱状の突出をもつ材（棟端飾り、長 17.1 ㎝、幅 14.6 ㎝、高さ 10 ㎝、針葉樹）

2.孔と切込みがある直角三角形の板材（妻覆いか、長 35.7 ㎝、幅 21.8 ㎝、厚さ 1.5 ㎝、広葉樹）

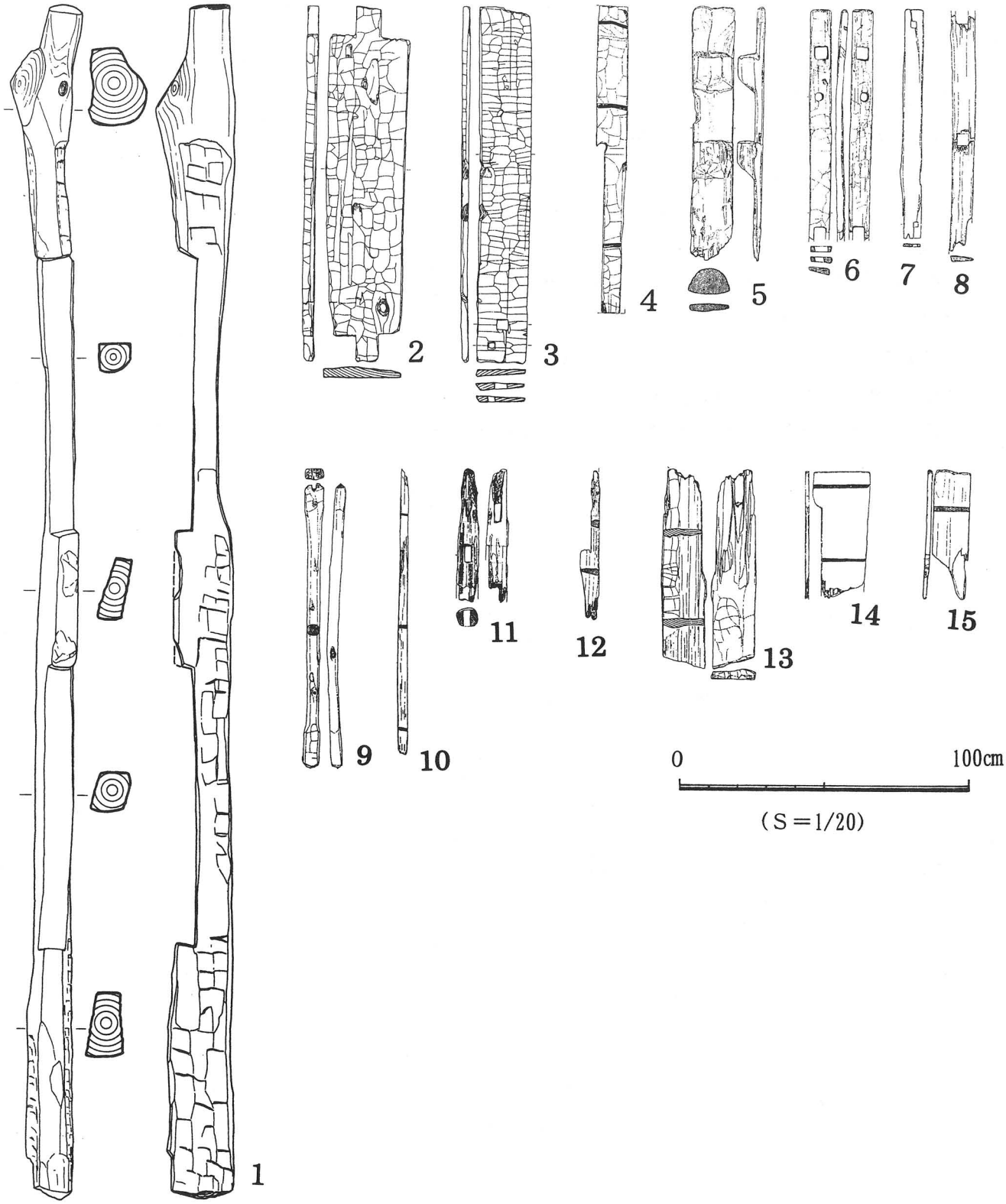
3.一木から足掛部が造り出された梯子（長 15 ㎝、幅 13 ㎝、広葉樹）



（S＝1/10）

遺跡名：布留遺跡　　所在地：奈良県天理市　　古墳時代後期

文献：埋蔵文化財天理教調査団『布留遺跡三島（里中）地区発掘調査報告書』　1995



1.切欠きのある材（板材、アカガシ亜属）

2.ほぞが造り出された材（井戸枠か、長 122.4 ㎝、幅 27 ㎝、厚さ 3.5 ㎝、モミ属）

3.ほぞ穴のある材（板材、長 122.7 ㎝、幅 17.5 ㎝、厚さ 2.4 ㎝、ヒノキ）

4.中位から 1 段幅が狭くなり、その段に半円形の刳り込みがある材（板材、長 65.2 ㎝、幅 10 ㎝、厚さ 1.5 ㎝、ヒノキ）

5.一木から足掛部が造り出された梯子（長 87.9 ㎝、幅 13.6 ㎝、厚さ 3.1 ㎝、ヤマザクラ型）

6.軸孔と方形孔がある材（扉口装置か、長 79.6 ㎝、幅 7.5 ㎝、厚さ 3.5 ㎝、モミ属）

7.ほぞ穴のある材（板材、長 79.9 ㎝、幅 6.5 ㎝、厚さ 0.9 ㎝、ヒノキ）

8.ほぞ穴のある材（板材、ヒノキ）

9.両端が幅広になり、端部に切り込みをもつ材（棒材、長 88.9 ㎝、径 4.3 ㎝）

10.（角材、長 98.2 ㎝、幅 3 ㎝、厚さ 0.5 ㎝）

11.直交する面それぞれにほぞ穴がある材（角材、幅 7 ㎝、厚さ 7 ㎝、コウヤマキ）

12.切欠きがある材（板材、長 51.1 ㎝、幅 6.3 ㎝、厚さ 2 ㎝）

13.（板材、長 69 ㎝、幅 14.5 ㎝、厚さ 2.5 ㎝、モミ属）

14.抉りのある材（板材、長 43.1 ㎝、幅 19.5 ㎝、ヒノキ属）

15.抉りのある材（板材、長 44.2 ㎝、幅 12.3 ㎝、厚さ 2.5 ㎝、ヒノキ）

遺跡名：星塚1･2号墳　所在地：奈良県天理市　古墳時代後期

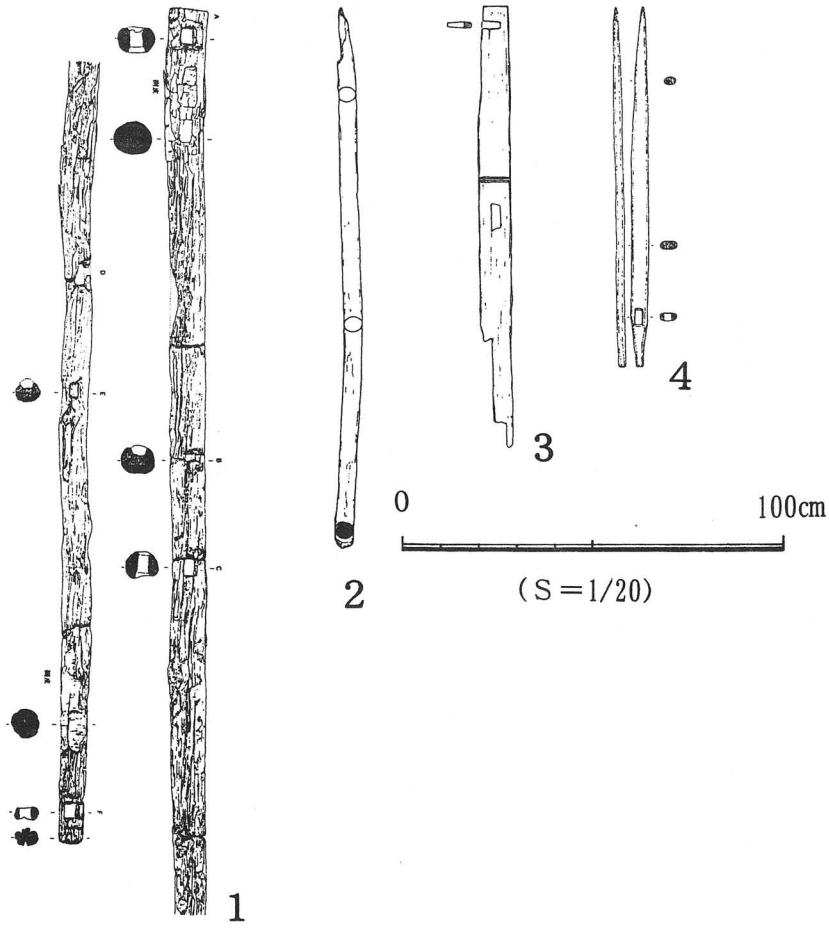
文献：天理市教育委員会『星塚・小路遺跡』天理市埋蔵文化財調査報告　第4集　1989

1.ほぞ穴と未貫通の方形孔が一定間隔である材（横架材か、長447㎝、径10㎝、アカガシ亜属）

2.（棒材、長144㎝、スギ）

3.ほぞ穴のある材（板材、長110㎝、幅8㎝、ヒノキ）

4.ほぞ穴があり、端部を鋭くする材（棒材、長95.8㎝、ヒノキ）



遺跡名：**御墓山古墳**　所在地：**奈良県天理市**　　**古墳時代後期**

文献：天理市教育委員会『御墓山古墳』天理市埋蔵文化財調査概報　平成 4･5 年度（1992･1993 年）　1996

1.切欠きのある材（板材、長 320 cm、コウヤマキ）

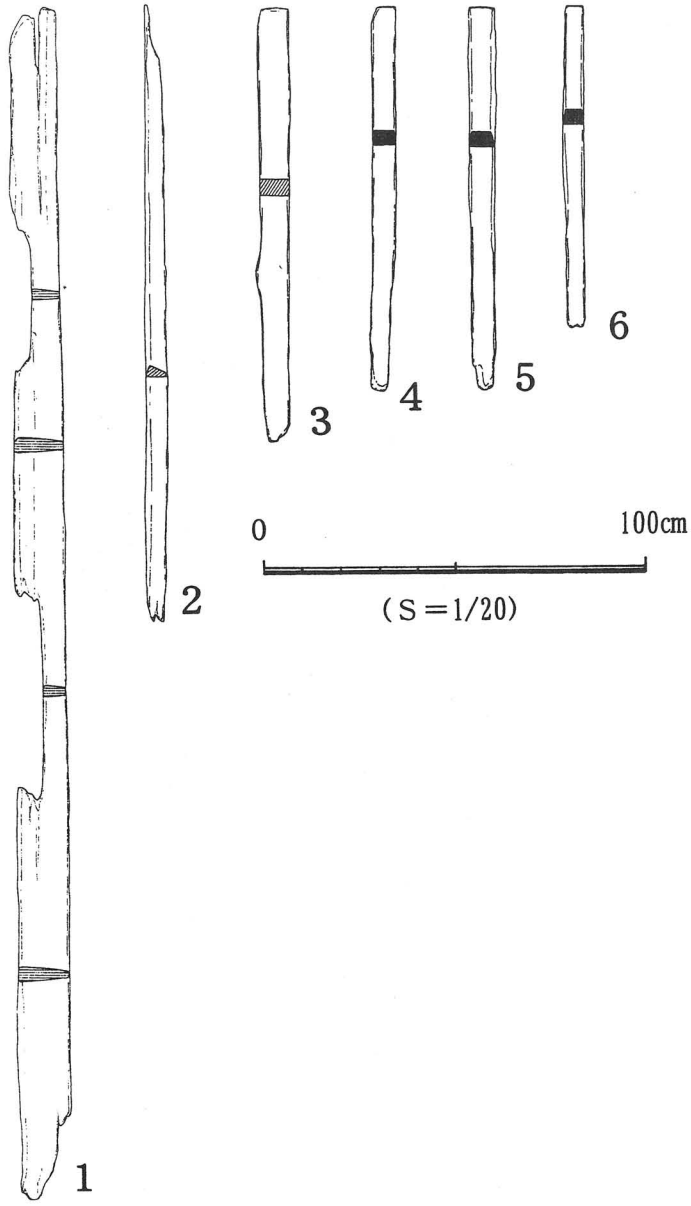
2.（棒材、長 162 cm、コウヤマキ）

3.（角材、長 115 cm、厚さ 4.5 cm）

4.（角材、長 115 cm、厚さ 3.8 cm）

5.（角材、長 115 cm、厚さ 4 cm）

6.（角材、長 85.5 cm、厚さ 4 cm）



遺跡名：勝山東古墳　所在地：奈良県桜井市　　古墳時代後期

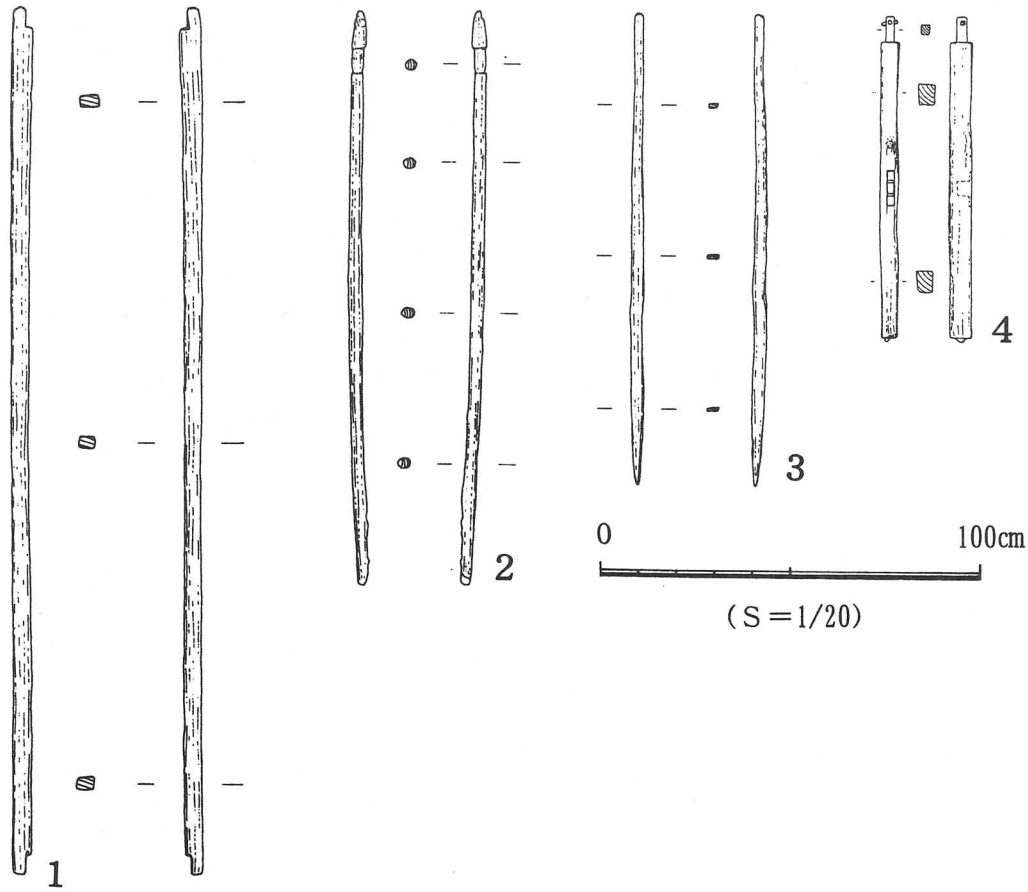
文献：桜井市教育委員会『纒向遺跡第 79 次発掘調査報告』平成 6 年度国庫補助による発掘調査報告書 2　桜井市立埋蔵文化財センター発掘調査報告書　16 集　1995

1.両端を切欠いた材（角材、長 229 ㎝、幅 3 ㎝×5 ㎝、ヒノキ）

2.一回り径の小さい部位を造り出した材（棒材、長 152.6 ㎝、径 3.6 ㎝、スギ）

3.端部を鋭くする材（板材、長 124 ㎝、幅 3.2 ㎝、厚さ 0.9 ㎝、ヒノキ）

4.ほぞが造り出され、その部分に小孔と木釘があり、凸形の未貫通孔が穿たれた材（角材、85.8 ㎝、幅 4.8 ㎝×5.8 ㎝、ヒノキ科）



和歌山県の概要

鈴木裕明

和歌山県の建築材の出土例は、管見にのぼるところでは弥生時代中期以降にみられる。中期の資料として、杭材及び棒材が岡村遺跡にあるが、仕口を活用したような明確な建築材ではない。

古墳時代になると仕口が造り出された建築材が、多数確認できるようになる。相欠き、ほぞ、縄欠け溝が比較的多く、それ以外に板接ぎ、溝、蟻ほぞ、括れといった仕口の種類が確認できる。前期には頂部に切欠き、欠込（頭貫き？）のある柱材が野田・藤並地区遺跡に確認でき、これらはいずれも心持ち削り出し材である。枝分かれした部位を残し、そこを境に下位は断面円形、上位は一回り小さく半裁された形状となり、端部を杭状にする柱材が、徳蔵地区遺跡から出土している。これは高床建物用の柱となる可能性が考えられ、いずれも心持ち削り出し材である。端部に切欠きと縄掛け溝がある横架材と考えられるものも、徳蔵地区遺跡から出土している。木取りは心持ち削り出し材である。垂木とみられる欠込と縄掛け溝のある材も、徳蔵地区遺跡から出土しており、これらの木取りはいずれも丸太材となっている。ほぞ穴が複数穿たれた板材は、野田・藤並地区遺跡と徳蔵地区遺跡に確認でき、徳蔵地区遺跡例は未貫通孔で、更に側面に溝がある。側辺や短辺を斜めに切り落とした板材が、野田・藤並地区遺跡にあり、これらは壁板の可能性がある。一木から足掛け部が造り出された梯子も、野田・藤並地区遺跡にある。中期には鳴神Ⅱ遺跡に建築材が確認できる。報告で「屋根形木製品」とされる、装飾的な凹凸をもつ断面三角形の意匠を造り出し、そこから連続する欠込・突出部と反対面にほぞ穴をもつ材が出土している。更にこの材には付属して蟻ほぞをもつ、方形で中心に孔のある環状の材がある。環状材は纏向遺跡に同様のものがある。この材については、付属の環状材が扉軸孔となる方立とする復元案がある。またこの材と組み合う可能性のある上方に抉りから連続する軸、下方にも突出する軸をもつ扉材がある。上方の抉りから連続する軸は前述の環状材と組み合う可能性がある。またこの扉材の側辺には、L字状の切り落としと板接ぎ用とみられる方形孔がある。同様に板接ぎ用とみられる方形孔のある板材も出土している。

仕口総括表

時代	貫穴	渡りあご	相欠き（欠込・切欠き）	ほぞ	板接	縄掛け溝	溝	蟻ほぞ	括れ
縄文									
弥生	△	△	△	△	△	△	△	△	△
古墳	△	△	◎	◎	○	◎	○	○	○

文献一覧

1．岡村遺跡　（社）和歌山県文化財研究会『岡村遺跡発掘調査概報』－亀の川改修工事に伴う発掘調査－　1983

2．野田・藤並地区遺跡　和歌山県教育委員会『野田・藤並地区発掘調査報告書』－海南湯浅道路に伴う発掘調査－　1985

3．徳蔵地区遺跡　（財）和歌山県文化財センター『徳蔵地区遺跡』－国道 424 号線道路改築事業に伴う発掘調査報告書－　2003

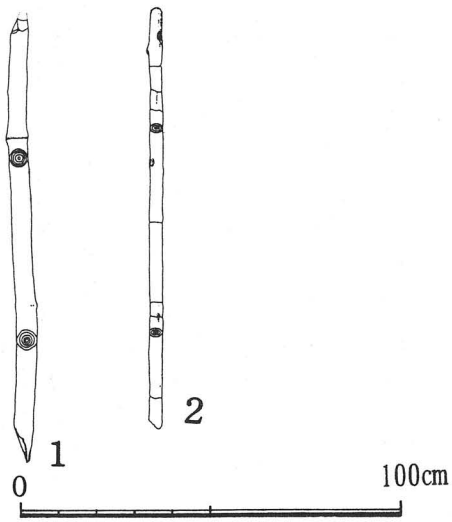
4．鳴神Ⅱ・Ⅴ遺跡　和歌山県教育委員会『昭和 45 年度阪和高速道路（近畿自動車道和歌山線）遺跡発掘調査概報』1971

遺跡名：**岡村遺跡**　所在地：**和歌山県海南市**　**弥生時代中期**

文献：（社）和歌山県文化財研究会『岡村遺跡発掘調査概報』－亀の川改修工事に伴う発掘調査－　1983

1　（杭材、長 118 cm、径 5 cm、ナラ科）

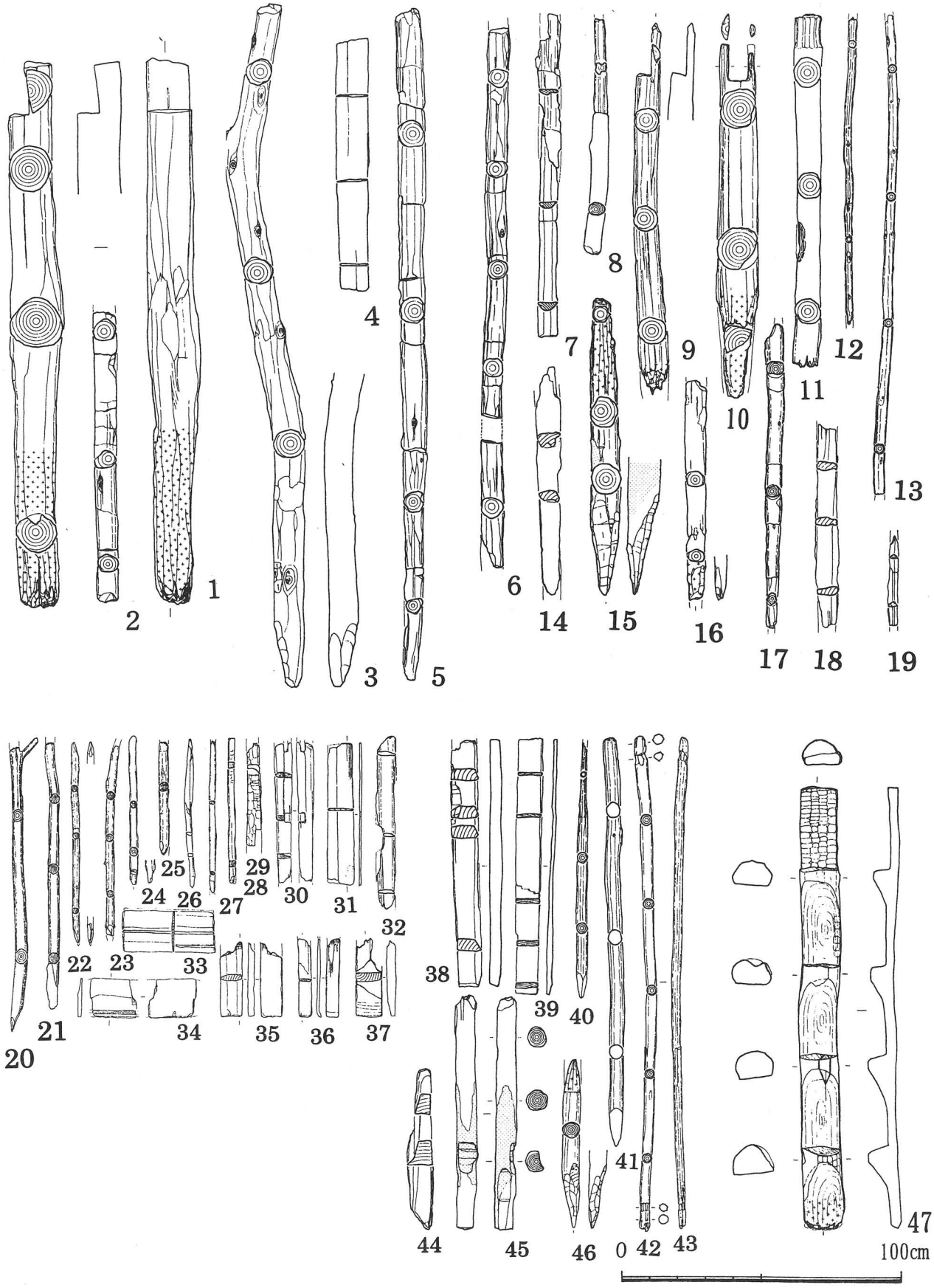
2　（棒材）



（S＝1/20）

遺跡名：**野田・藤並地区遺跡**　所在地：和歌山県有田郡吉備町　古墳時代前期

文献：和歌山県教育委員会『野田・藤並地区発掘調査報告書』－海南湯浅道路に伴う発掘調査－　1985

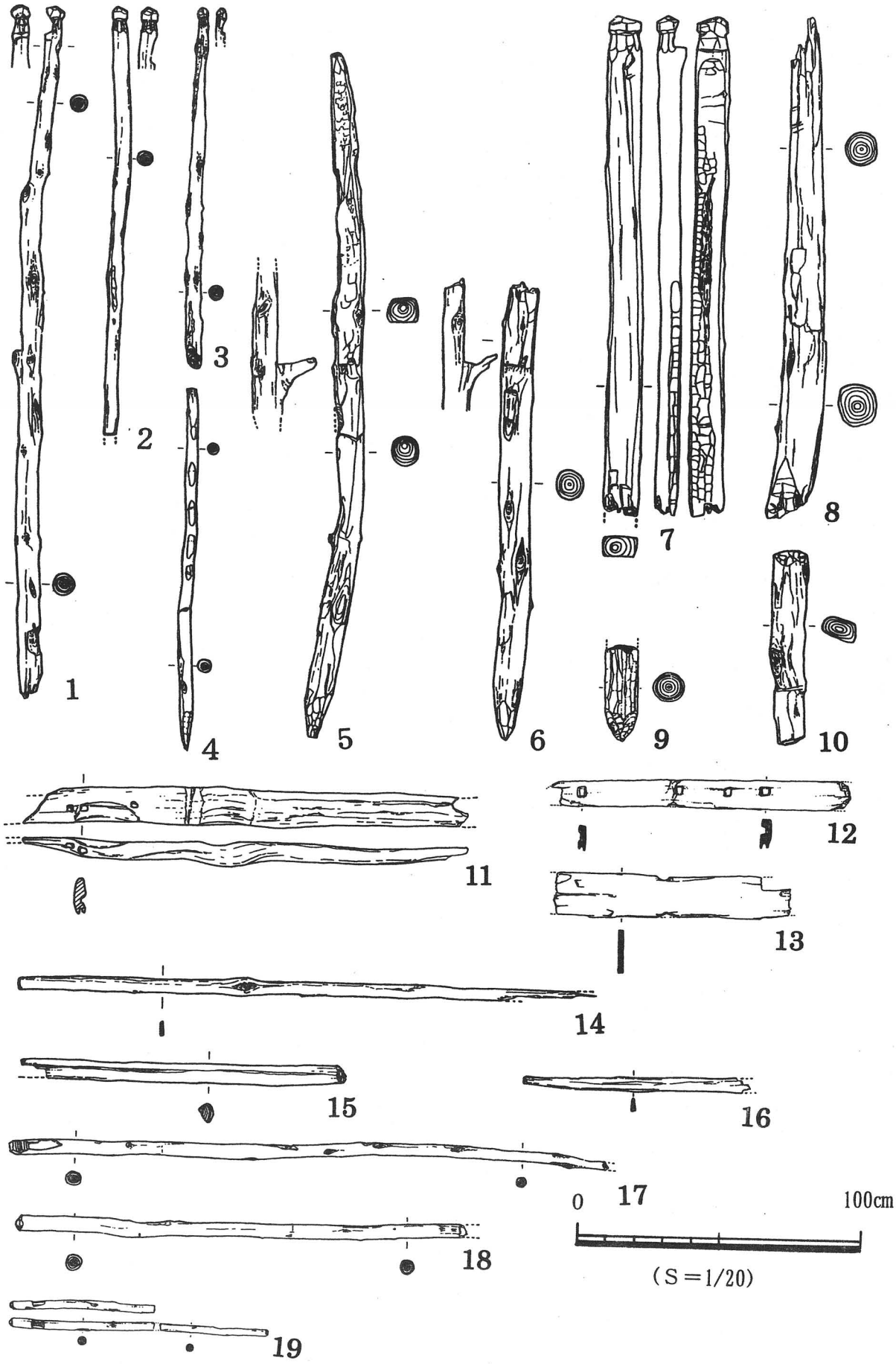


（S＝1/20）

1.切欠きのある材（柱材、長 196 ㎝、径 12～20 ㎝）
2.（柱材、長 104 ㎝、径 8 ㎝）
3.端部を杭状にする材（柱材、長 245 ㎝、径 9～13 ㎝）
4.（壁板か、長 90 ㎝、厚さ 1 ㎝）
5.（柱材、長 241 ㎝、径 10 ㎝）
6.（柱材、長 186 ㎝、径 8～10 ㎝）
7.（板材、長 115 ㎝、厚さ 2～3）
8.（柱材、長 89 ㎝、径 4～7 ㎝）
9.切欠きのある材（柱材、長 141 ㎝、径 9～12 ㎝）
10.端部に欠込（頭貫き?）がある材（柱材、長 127 ㎝、径 13～15 ㎝）
11.端部外面を削り一回り径を小さくした材（柱材、長 125 ㎝、径 8～10 ㎝）
12.（垂木か、長 110 ㎝、径 2～3 ㎝）
13.（垂木か、長 171 ㎝、径 3～4 ㎝）
14.（板材、長 81 ㎝、幅 5 ㎝×9 ㎝）
15.端部を杭状にした材（護岸の用材、長 110 ㎝、径 12 ㎝）
16.（柱材、長 78 ㎝、径 6～8 ㎝）
17.（柱材、長 108 ㎝、径 4～7）
18.（板材、長 78 ㎝、幅 3 ㎝×8 ㎝）
19.（棒材）
20. 枝分かれした部位を残し、端部を杭状にした材（棒材、長 102 ㎝、径 5 ㎝）
21.（棒材）
22. 端部を杭状にした材（棒材、長 71.3 ㎝、径 6 ㎝）
23. 端部を杭状にした材（杭材）
24. 端部を杭状にした材（杭材）
25. 端部を杭状にした材（杭材）
26.（角材）
27.（角材）
28.（角材）
29.（板材）
30.ほぞ穴のある材（板材）
31.（板材）
32.切欠きのある材（板材）
33.（板材）
34.側辺を薄く加工する材（板材）
35.（板材）
36.短辺をわずかに折り返した材（板材）
37.（板材）
38.（板材）
39.端部を斜めに加工した材（板材）
40.端部を杭状にした材（棒材）
41.端部を杭状にした材（棒材、長 150 ㎝、径 5 ㎝、イヌガヤ）
42.両端に縄掛け溝のある材（棒材、長 180 ㎝、径 5 ㎝、イヌマキ）
43.（角材）
44. 欠込のある材（長 111 ㎝、径 10.2 ㎝）
45.端部を杭状にした材（棒材）
46.一木から足掛け部が造り出された梯子（長 155.5 ㎝、幅 14.2 ㎝、厚さ 4 ㎝、イヌマキ）

遺跡名：**徳蔵地区遺跡**　所在地：**和歌山県日高郡南部川村　古墳時代前期**

文献：（財）和歌山県文化財センター『徳蔵地区遺跡』－国道 424 号線道路改築事業に伴う発掘調査報告書－　2003

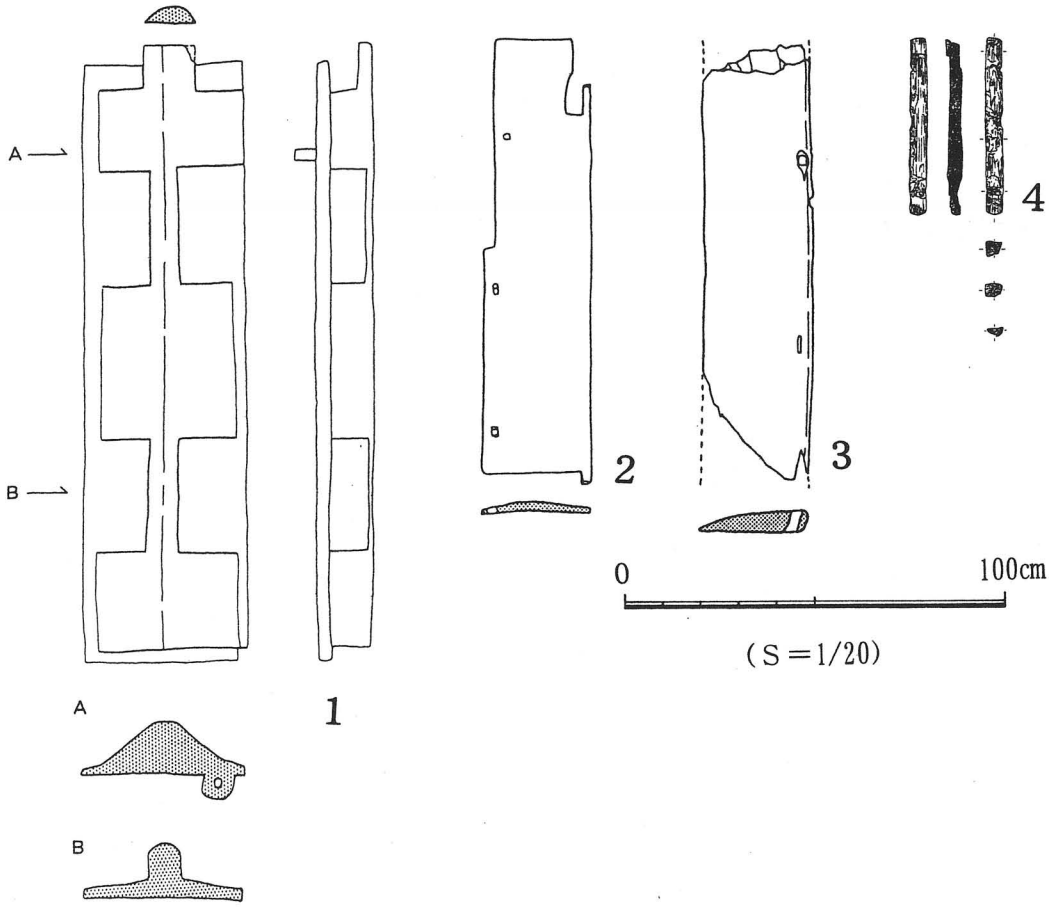


1.欠込と縄掛け溝のある材（垂木か）
2.縄掛け溝のある材（垂木か）
3.欠込と縄掛け溝のある材（垂木か）
4.端部が杭状になる材（棒材）
5.枝分かれした部位を残し、そこを境に下位は断面円形、上位は一回り小さく断面方形となり、端部を杭状にする材（高床建物用柱か）
6. 枝分かれした部位を残し、そこを境に下位は断面円形、上位は一回り小さく半裁された形状となり、端部を杭状にする材（高床建物用柱か）
7.端部に切欠きと縄掛け溝がある材（横架材か）
8.（柱材）
9.端部が杭状になる材（柱材か）
10.（板材）
11.未貫通孔のある材（板材）
12.未貫通孔と側面に溝がある材（板材）
13.（板材）
14.（角材）
15.（棒材）
16.（板材）
17.端部が杭状になる材（棒材）
18.（棒材）
19.欠込のある材（垂木か）

遺跡名：**鳴神Ⅱ・Ⅴ遺跡**　所在地：**和歌山県和歌山市　古墳時代前・中期**

文献：和歌山県教育委員会『昭和45年度阪和高速道路（近畿自動車道和歌山線）遺跡発掘調査概報』1971
和歌山県教育委員会『鳴神地区遺跡発掘調査報告書』一般国道 24 号バイパス関連遺跡発掘調査 1984
松岡良憲「和歌山県鳴神遺跡出土の「屋根型木製品」について」『光陰如矢－荻田昭次先生古希記念論集－』1999

1.装飾的な凹凸をもつ断面三角形の意匠を造り出し、そこから連続する欠込・突出部と反対面にほぞ穴をもつ材で、そのほぞ穴に付属して蟻ほぞをもつ、方形で中心に孔のある材があるもの（長 160.8cm、幅 42.0cm、厚さ 14.8cm、方形の付属材は 8cm 四方、厚さ 3cm、孔径 3cm）
2.突出する軸と抉り、L字状の切り落としと板接ぎの可能性のある方形孔のある材（扉材、長 114.8cm、幅 28.8cm、厚さ 2.8cm）
3.板接ぎの可能性のある方形孔のある材（扉板材か、長 115.2cm、幅 28.4cm、厚さ 5.0cm）
4.欠込のある材（棒材）



出土建築材資料集

—縄文・弥生・古墳時代編—

第２分冊

東海・近畿

発行年月日　平成17年３月31日
編集・発行　小矢部市教育委員会文化課
〒932-8611
富山県小矢部市本町１－１
TEL　0766-67-1760
印　　刷　小矢部印刷